ShareWith®

「AWSセキュリティサービス導入パック」導入事例

User's data

野村インベスター・リレーションズ株式会社 様

コーポレートサイトCMSの運用環境をAWSに移行
セキュリティ強化サービスもパッケージで導入し
脆弱性の常時監視とDDoS攻撃の回避などを同時に実現

ポイント1 年に1度の脆弱性診断を見直し、脆弱性監視を常時稼働状態にすることで新たな脅威にリアルタイムに対応

ポイント2 CDN環境の提供でDDoS攻撃を回避し、WAF適用によりアプリケーションセキュリティを強化

ポイント3 インフラのパフォーマンスを常に可視化し、状況判断の正確向上と迅速なアナウンス態勢を整備

ポイント4 運用開始から1年以上経過した現在もトラブルなく安定した運用を実現

野村インベスター・リレーションズ株式会社 様

野村ホールディングス株式会社が100%出資し、日本初の総合IR支援会社として1990年6月に創業。企業が投資家から適正な評価を得られるようにIR活動の実行支援コンサルティングを行い、投資家へのコミュニケーション活動をサポートする戦略的なコンサルティングおよびツール提供を主な業務としている。また、IR支援サービスに必要な幅広い専門性をカバーするため、証券業界に加えて、銀行、機関投資家、経営コンサルティング、マーケティングリサーチ、出版、広告、制作、Webなど、多様な業界での豊富な経験を持つ専門家を多数有する。

所 在 地：〒100-8130
東京都千代田区大手町2-2-2
アーバンネット大手町ビル
U R L：https://www.nomura-ir.co.jp

野村インベスター・リレーションズ株式会社
ソリューション部
インテグレートコミュニケーショングループ
田尻 哲次 氏

クラウド基盤の冗長構成を見直し 堅牢で安定したインフラ実現をめざす

野村インベスター・リレーションズ株式会社（以下、野村IR）は、企業が投資家から適正な評価を得られるようIR活動の実行支援コンサルティングを行い、投資家へのコミュニケーション活動をサポートすることを主な業務としている。企業が投資家からどのような認識をされているかを調査するパーセプションスタディーと、それをもとにわかりやすく企業の姿を訴えるコーポレート・ストーリーの作成を基本とし、具体的なコミュニケーション活動についてのさまざまなコンサルティング業務、会社説明会の設営、印刷物、映像などのツール類の制作などを行っている。

同社のビジネスポートフォリオの中でも、主要な柱のひとつとして注目されているのが、コーポレートサイトCMS（コンテンツ・マネジメント・システム）「ShareWith」（シェアウィズ）だ。クラウド型CMSにより、煩雑なサーバー設定を不要にして使いやすさを追求。シンプルかつ直感的な管理画面や、便利なデータ連携機能で、コーポレートサイトの運営負担を大幅に軽減できるのが特長となっている。例えば、東京証券取引所が運営する電子開示システム「TDnet」や、金融庁の電子開示システム「EDINET」との自動連携機能により、適時開示リリースや財務グラフなどの更新負担を大幅に削減できるという。また、ステークホルダーとの対話を意識したサイト運営に注力できるようにも設計されている。

野村IRでは、ShareWithの運用基盤を、従来のクラウド環境からAWSへ移行するプロジェクトを2018年にスタート。その際に活用したのが、スタイルズがAWS上でのクラウド運用環境を構築するサービス「CloudShift」と、AWS環境でのセキュリティ強化を実現する「AWSセキュリティサービス導入パック」だった。

AWSへの移行の背景について、野村IRソリューション部 インテグレートコミュニケーショングループ 田尻 哲次氏は、「クラウド基盤の冗長構成に見直しをかけることで、より堅牢で安定したインフラの実現をめざしました」と説明する。「運用基盤全体をAWSに移行するにあたり、条件としたのは、AWS Auto Scaling（アプリケーションをモニタリングして容量を自動で調整する機能）の活用と、データセンター 2拠点間によるDR（災害復旧の実現でした。ちょうどその頃、2018年にAWS大阪ローカルリージョンが開

設され、AWS東京リージョンとの間で遠隔地DRの可能性が実現。レジリエンス（復元力）の高い運用の見通しが立ったことから、2019年4月に本格的に設計を開始しました」

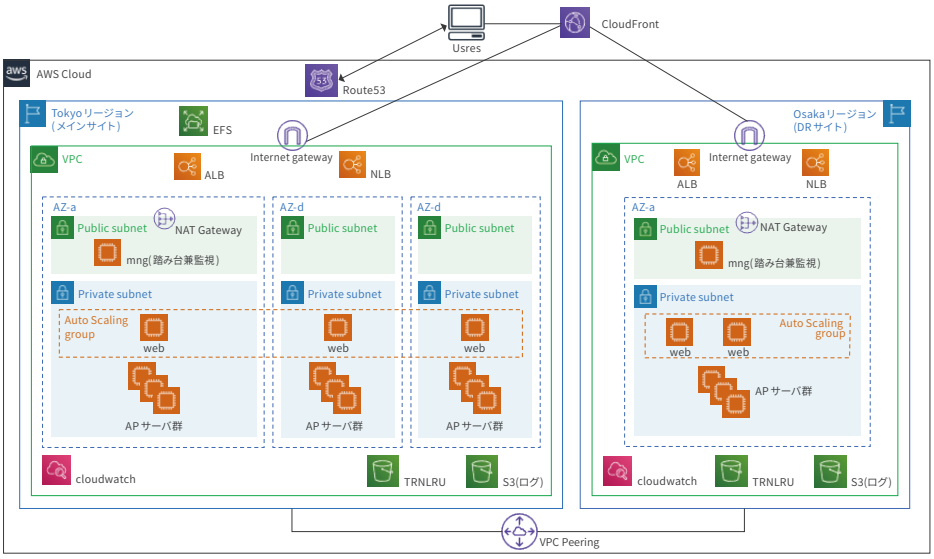
セキュリティ課題を丸ごと解決する AWSセキュリティサービス導入パック

ShareWithにはお客様企業のクリティカルな情報が膨大に流通する。AWSの新クラウドへ移管するにあたっては、インフラやリソースの監視、脆弱性検知などが不可欠となる。もちろん、AWSにはセキュリティ強化を支援する各種のサービスが用意されている。しかしそれを個々に適用するには運用・監視のノウハウと十分なマンパワーが必要だ。AWSセキュリティサービス導入パックは、その課題を丸ごと解決する切り札となった。

「システム開発を担うパートナー会社と相談した結果、以前より統合監視ツール『Zabbix』でシステムの監視業務を行っていたスタイルズに、得意分野であるAWSの構築とセキュリティサービスの導入もお任せすることにしました」（田尻氏）

AWSセキュリティサービス導入パックは、大きく分けて7つのAWSセキュリティ機能をパッケージしたものである。今回、野村IRはその中から以下の3つを選択してShareWithに適用した。1つ目は「Amazon Inspector」（自動化されたセキュリティ評価サービス）。脆弱性診断を定期的に実施することで、早期に脆弱性を検知して迅速に対策を打つことができる。2つ目は「AWS Config」（AWSリソースの設定を評価・監査・審査するサービス）。AWSの操作履歴や変更履歴を監査することで、万一インシデントが発生した場合にどんな事象が起きていたのかを正確に把握し、証跡を元に説明責任を果たすことができる。3つ目は「Amazon GuardDuty」（マネージド型脅威検出サービス）。マルウェア検知、機械学習、異常検出、脅威インテリジェンスなどの機能によって、悪意のある操作や不正な動作を継続的にモニタリング。潜在的な脅威を識別することが可能となる。

田尻氏は、「AWSのプロフェッショナルであるスタイルズがプロジェクトに参加してくれたことで、想定できなかった課題が発生した時も的確にアドバイスをいただき、スムーズに解決できました。また、営業のほかエンジニアなど複数人のチーム態勢で臨んでくれたので、効率的に開発が進み、早期の運用開始につながりました」と話す。



脆弱性診断の空白期間を削減し 新たな脅威にリアルタイムに対応

AWSへの移行、およびAWSセキュリティサービス導入パックの導入によって、主に以下の3つの効果が得られたという。第1に、新たな脅威に対するリアルタイムな対応。従来、ShareWithの脆弱性診断は、年に1度の頻度で実施していたという。次の診断まで空白期間が生じるため、新たな脅威が発生した場合、態勢を構築することが困難になる可能性もあった。しかし現在は、脆弱性の監視が常時稼働している状態になり、新たな脅威に対してもほぼリアルタイムに対応することができるようになった。運用面も劇的に変わったという。

第2に、DDoS攻撃への対応強化。AWSの利用により、ShareWithではDDoS攻撃の対策としてCDN（Contents Delivery Network）環境を標準で提供。また、お客様自身がWebサイトを更新される管理画面には、AWS WAF（Web Application Firewall）を適用できるようになった。「アプリケーションレイヤでのセキュリティ対策も万全であることをお客様にお伝えできるのは、大きな安心材料になります」と田尻氏は評価する。

第3は、インフラのモニタリング。今回から新たに「Amazon CloudWatch」（AWSリソースとアプリケーションのモニタリング／オブザーバビリティサービス）や、Zabbixを詳細に把握できるようになった。インフラのパフォーマンスがどのような状態にあるのかを常に可視化できるようになったことで、従来以上に状況判断が正確になり、万一問題が発生した際も、ShareWithをお使いのお客様に対して迅速かつ的確にアナウンスできる態勢が整ったという。

「運用開始から1年以上経過し、ShareWithのインフラやサーバーも増強しました。現在までトラブルもインシデントもなく、安定して運用が可能になっています。それが最大のメリットだと感じています」（田尻氏）

今後は、AWSセキュリティサービス導入パックの他の機能を順次適用し、最大限活用していくことを目標にしていくという。それにより、さらなる安心をお客様に提供していく考えだ。

「安定し信頼されているAWSでも、絶対に止まらないという保証はありません。だからこそダウンタイムをいかに最小限に抑え、リスクを避けることができるかを考えることが重要なポイントになります。今回のプロジェクトでは、ShareWithを安定して稼働させるために冗長化やサーバー構成などについて、スタイルズと一緒に知恵を出し合って構築できたことに大きな意義がありました。その上で、核心のセキュリティ対策として、AWSセキュリティサービス導入パックを選んだことは、ベストな判断だったと確信しています」と田尻氏は評価する。

ShareWithは2015年のサービス開始から6年を経た現在、上場企業だけで170社以上が利用し、その裾野は着実に拡がり続けている。AWSのフィールドでスタイルズが提案できる新たな支援の余地はまだまだありそうだ。

Stylez
株式会社スタイルズ

スタイルズは2003年の設立以来、企業が円滑な事業を行うのに必要なITインフラの構築や、システム開発・保守、ソフトウェアの開発などを手掛けているシステムインテグレーターです。AWS（Amazon Web Services）をはじめ各種クラウドやベンダーパートナーとして総合的なITサービスを展開しています。近年、サポート切れソフトウェアや費用対効果が悪くなった環境下にあるWebシステムを、最適な環境下や最新システムへの移植を行う「レガシーアプリ移行サービス」に特に注力し、企業のシステムの導入～維持にかかる総費用の削減やデジタル化推進に貢献を目指しています。

本社
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-2 風雲堂ビル6階
TEL.03-5244-4112（CloudShift担当）　URL. https://cloudshift.stylez.co.jp

2021年4月 ©2003 - 2021 Stylez Corp.　●本カタログに掲載の製品仕様は、予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。●本カタログに掲載されております社名および製品名は、各社の商標及び登録商標です。